

日本語初期段階における「書く」力を伸ばす指導 ～生活日記を書こう～

今号は初期指導における「書く」について考えてみたいと思います。「書く」には、文字を書くというスキルの面と、意見や考えを書くという認知力が求められる面があります。

「みらい」の生徒は、仮名文字の指導から始めますが、並行して文を書く練習もしています。文型や文の構造を理解するためには、①語彙量、②辞書使用量③書く量の三つの量が大切になります。「みらい」では、そうした力をバランスよく伸ばしていくために、初期段階では日記を書くことが、良い練習になると考えて指導をしています。

日記を書くことは、生活レベルの語彙量を増やすことになります。書き続けることで、行事の感想や授業の振り返りなども書けるようになります。こうした段階を経て、自分の考えや、客観的な事実を整理することができるようになったり、教科学習へとつなげていったりできると良いと思っています。



【みらい東の日記指導】

(1) 日本語で日記を書くまでの道のり

通級開始直後、生徒たちは母語で日記を書きます。母語でも日記を書いたことがなく、何を書いたらいいのか分からないと言う生徒も大勢います。母語を書く力は個人差が大きく、バイリンガル相談員に母語のスペルミスなどの修正をしてもらっています。

日本語での日記を導入する時期としては、ひらがな・カタカナを覚えた5週目以降、文型指導では名詞文の基礎が終わり、動詞文の学習を始めるタイミングで始めます。（「みらいの日本語」のStage2の24課修了後）母語から、突然日本語で書くことを要求されるので、最初は戸惑いや不安もあり、中々書けないこともあります。でも、7～8週間あたりから、定型表現を覚えていき、少しずつ書けるようになっていきます。

(2) 日記を書くための教材

日記を書くにあたり、書く「ネタ」がなければ、中々書くことができません。そのため、最初はモデル文を提示して、穴埋め形式で書いていきます。例えば、先に上げた「みらいの日本語」24課の「きょうは4月25日です。」をベースに、日付の変更や天気を記していくと、以下のような文を書くことができます。

きょうは 8月4日もくようびです。天気は 晴れでした。きおんは 35どでした。あつかったです。

また、写真にある、「日記を書こう」の教材の中には、テーマ別にさまざまなモデル文が掲載されています。それを写しながら書いていくこともできます。その他にも、書くのに必要な食べ物や気持ちを表す言葉などが絵で書かれている図表なども活用しています。閲覧、貸出は可能です。ぜひご覧いただけたらと思います。



(3) 日本語の授業として

生徒が書いた日記を教材として使い、毎日帯学習として15分～20分くらい時間をとって、誤字脱字や、助詞の使い方、動詞が正しく活用できているか等を確認していきます。こうした活動は、日本語中後期の作文指導の「推敲」にもつながるものです。慣れてくると、書きたい気持ちが高まるのか、インターネット等で調べて書いてくる生徒もいて、主体的に学ぶ姿に驚かされます。多少間違っても、書いてきたことを尊重し認めることで、生徒の書くとする気持ち高めていきたいと考えています。

日本語基礎の指導 ～「みらいの日本語」テキストを使った授業実践例～

◆「みらいの日本語」48課「本があります/ 先生がいます 49課生徒が 五人います。」の学習の流れ◆

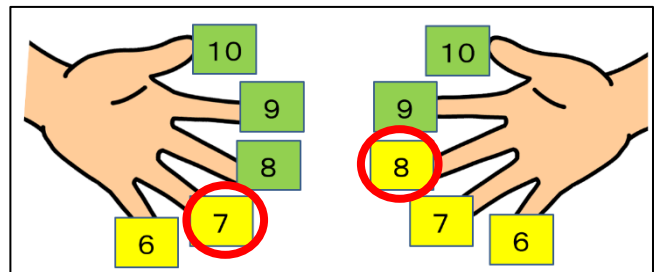
| | | | |
|---|--|--|--|
|  <p>があります。</p> |  <p>が います。</p> |  |  <p>つくえ の うえ に ほん が あります。</p> |
| <p>①48課の基本文型の練習です。存在文「あります、います」の使い分けの確認をします。</p> | <p>②「教室になにがありますか。」や「教室にだれがいますか。」等、学習した文型を使って、生徒同士で会話の練習をします。</p> | <p>③48課の発展的な内容です。「位置を表す言葉」と「あります、います」と合わせて学習します。</p> | |
|  |  <p>1さつ 2さつ 3さつ 4さつ 5さつ</p> <p>ひとり ふたり さんにん よにん ごにん</p> | <p>つくえの うえに みかんが 12こ ありました。 おとうとが 5こ たべました。 いもうとが 3こ たべました。 いま、みかんは なんこ ありますか。</p> | |
| <p>④49課の学習です。生徒の学校生活に近い内容の導入文を読むことで、どのような場面で使われるかを把握します。</p> | <p>⑤存在文は助数詞と合わせて教えることが多く、ここで本や人など、生活場面での頻出助数詞を導入します。</p> | <p>⑥ここまで学習が進むと、算数の文章題の意味が明確になります。日本語が教科の学習でも役に立つことがわかると、意欲も上がります!</p> | |
| <p>⑦ ⑥の発展として、数字の部分をXやYとして置き換えれば、数学の文字式や方程式を教えることもできます。☆みらいの学習では、実物や絵カード・パワーポイントなど、視覚教材を沢山使っています。「みらいの日本語」には母語訳があり、理解を深めることに役立っています。また、付属の練習帳もあり、反復練習で定着を図っています。</p> | | | |

五十嵐ベニータ相談員のフィリピン紹介



みらいの数学の時間、フィリピン人生徒たちが、机の下で指を動かして計算をしているのを見ることがあります。フィリピンでは、指を使って掛け算をすることがあります。今回は、そのフィリピン式掛け算の方法をご紹介します。

- ① 両手を、親指を上にして、図のように広げます。
指は、上から「10, 9, 8, 7, 6」の数を示します。
- ② では、「7×8」の掛け算をしてみましょう。
左手の薬指「7」と右手の中指「8」を合わせます。
合わせた2本の指と、その下の指(右手の「6」と左手の「6」「7」)の本数を数えます。
ここでは、左手が2本、右手が3本の計5本です。
これを10倍します。「**5本×10=50**」



- ③ 合わせた指から上の指を、右手の指の数×左手の指の数(ここでは**3本×2本=6**)で計算します。
- ④ ①と②の合計が、その掛け算の答えとなります。(50+6=56で正解です!) 他の数字でも試してみてください。この方法ならば、掛け算を5の段までしか暗記していなくても、正解が出せます。

初めて試してみると、足し算と掛け算の両方を使うため、頭が混乱しそうですね。でも、子どもたちは案外上手にこの方法で計算をしています。数学は数字を使うため、万国共通と思っていると、出身国によっては数字や記号の書き方、覚え方等が違って驚くことがあります。フィリピン人生徒たちも、日本の数学を日々驚きながら(@_@)、学んでいます。